

結して對抗しやうとすると、資本家地主の政府は「非常時だ、ガマンせよ」と我々の方のみを押えつけるのです。眞に非常時ならば尙のこと多年甘い汁を吸つて来た地主共をこそ押さゆべきにアヘコムの有様です。コレではたまつたものではない。この反動の重壓をハネ飛ばさねば到底小作人は生きては行けない。サテ農民の守り本軍であるところの農民組合の方はどうかといふに指導精神が違ふといふ點にコビリついてムダな精力を仲間喧嘩に費し多くもない組織農民層を三つにも四つにも分散対立させておきます。子供でさへも一本の矢を折るのと五本の矢をカタメて折るのとどつちが樂かを知つてゐるのに何といふメカゲたことでせうか。

福岡縣の例をとつてみても福佐、日農、全農福聯の三派が併立してゐて相互に平素言はんでもよいことを言ひちきるためたとへば

同じ地主に對して数人の小作人が寄りそれが各派の組合に加入してゐるとき誠懇要求を別々の割合で單獨に交渉するものだから却つて地主にナメられたりしておきます。

もうこのあたりで一團兄弟喧嘩はサラリとやめて、共同の敵である地主資本家の本城に協力一致して突進しやうではないか。そこで本来ならば現存各組合の即時大合同を提唱したいのですが、各本部に於けるサ、ヤカな行掛りもあらう故に今直ちに打つて一つの火の玉となることはできないがせめて全小作人に共通する大問題が生じたときにでも各組合が共同して外敵にあたらうではないか。

どうか皆さん一途はす恐れず男一匹手を差し伸べてガツンリ腕を組まうではないか。會議當日は萬障くりあはせ、アツチからもコツチからも押かけて来てこの會合の成立に努力しませう。